

平成 26 年度浜松創造都市推進会議 第4回音楽専門部会 議事録

日 時：平成 27 年 1 月 28 日（水）午後 6 時 00 分～午後 8 時 00 分

場 所：浜松市役所本館 5 階 庁議室

出席者：梅田英春委員、峯郁郎委員、中村勝也委員、金子和裕委員、相原靖委員
岡部比呂男委員、小林昌史委員、土屋史人委員、初村則子委員、清水和宏委員
高橋由美子委員、伊熊元則委員、後藤康志委員、嶋和彦委員
(オブザーバー)

影山伸枝創造都市推進担当課長、産業部産業振興課副主幹山田英二、森田孔二文化政策課長

報 道：静岡新聞、中日新聞

傍聴者：1 人 川嶋朗夫担当部長

事務局：鈴木三男課長補佐、竹本澄生グループ長、小川由利子、門名由佳（文化政策課）
影山元紀グループ長、宮木広由（以上、企画課創造都市推進グループ）
島田篤志（浜松市文化振興財団音楽院グループ）

1 開会（事務局 鈴木）

資料説明

これより 進行は梅田部会長

2 挨拶（梅田部会長）

3 報告事項

(1) ユネスコ創造都市ネットワーク加盟について

資料 1 説明（事務局 影山）

(梅田部会長)

様々な会議に参加するみたいだが、創造都市に加盟したことによって市民に還元できるプログラムは市として考えていないのか？

(事務局 影山)

象徴的なものは世界音楽の祭典を予定。その他、市民の間で盛り上げを目的に音楽事業での冠イベントを予定。市民の意識や参加を盛り上げるために、何を実施するかが今後の課題になる。

(梅田部会長)

常に市民レベルで市民に何を還元できるかを考えながら会議を行うことが大切。そのことを忘れないように。はじまったばかりで、あれもこれをやるのは難しいので、少しずつ積み上げながら、祝賀モードというより市民に浸透するように、途中で失速しないように続けて実施することが大切。

(事務局 影山)

推進会議のホームページを立ち上げた。これから企業にリンクするページを作成する予

定。今後、皆様の協力をお願いしたい。日を改めてお願いに伺う。

4 議事

(1) ユネスコ音楽都市はままつ推進事業について

資料2 説明（事務局 鈴木）

(梅田部会長)

実行委員会の立ち上げはいつになるのか？

(事務局 鈴木)

当初は早めに予定したが、予算が確定するのが3月中ごろという問題もあり、早くても3月か4月になる。単発に国際会議をすとか、音楽祭をやるということではなく、3年間などトータルで総合的に考えていきたい。創造都市として産業面も重要なことなので、産業部と体制などを調整していかなければならない。

(岡部委員)

サウンドデザインのイメージは？概念は？

(事務局 鈴木)

浜松は楽器産業が集積されているところだが、今まで音楽・演奏ばかりがクローズアップされてきた。文芸大でも「楽器の辞典」「バンバンケンバン」だとか、音づくりをテーマにして、様々な事業を行っている。アコースティックな音から電子音楽など楽器・音をつくる仕組みなどに焦点をあてたい。また、楽器の展示や個人の楽器職人にも焦点をあて、音楽にとどまらず、音の可能性を追求していきたい。

(梅田部会長) (峯委員)

ハード（楽器・産業）とソフト（音楽・音）の両方を含んでいる。とても重要なことで、他の都市にはなく浜松にしかできないこと。創造都市の柱ともなる楽器産業にも焦点をあて、そこからつくられる音にも焦点をあてる。浜松らしさでもある。音楽だけでなく、音にフォーカスをあてるのがいい。音には「こちよさ」の要素がある。ただし音にはネガティブな暴力的な音もあり、危険なことと勘違いする場合もある。浜松らしさを意識した音にしたい。

(岡部委員)

浜松には「音響」の会社もある。ぜひ、浜松に来てみようとなればいい。音にまつわるクリエイターが集まり新しいことが起こりそうな気がする。たくさんの人が集まるようにしたい。サウンドデザインの表現を分かりやすくしたい。

(梅田部会長) (峯委員) (事務局 鈴木)

2017年でなくても、早くやればいい。ホップ ステップ ジャンプとなればいい。

(初村委員)

以前、ライオンズクラブのコンサートで、バイオリニストの方が自分のバイオリンと ヤマハさんからお借りしたバイオリンを使い、クラシカルな曲とポピュラーな曲を演奏した。

楽器の紹介も兼ねて演奏を行っていたのが、とても良かった。演奏方法も明るい音楽では違っていた。楽器に触れてみてくださいのコーナーもあった。

(梅田部会長)

時間が限られているので、演奏するまでは難しいかもしれないが、小さなところまで目配りをしてほしい。

(清水委員)

市民に浸透すること。市民レベルで盛り上げることが大切。市民の視点のイベント 市民に受け入れられるイベントを検討していくべきだと思う。

(梅田部会長)

我々も市も重要なのは分かっていると思う。あれもこれも行うのは難しい。創造都市ネットワークなので他都市とネットワークをしてやっていくこと。ものをつくりだし、浜松を豊かにしていくこと。我々が意見をだして考えることが必要。あるものを活かしてどうやって発展していくか、育てるか、ネットワークすることが次につながる。

(清水委員)

市民イベントのやらまいかミュージックフェスティバルの代表でもあり、吹奏楽団体の代表でもある。全国には市民音楽祭がたくさんあり、それらの市民音楽ネットワークを浜松市でも活用していければ、民と官でいろいろな動きができる。浜松ではいろいろな音楽をやっているが、それぞれのネットワークがない。市民レベルでネットワークが広がればいい。

(土屋委員)

日本の吹奏楽はコンクールのおかげで発展してきた。海外にいても、浜松の吹奏楽は非常に高い評価を得る。浜松ではピアノコンクールやオペラコンクールをやっているが、楽器産業が核になる。ヤマハ、カワイの会社があって楽器をつくっていたことで、吹奏楽をする人が多くなった。海外から演奏者を招いて浜松の楽器を弾くことが浜松らしさになるのでは。

(梅田部会長)

クリエイトすることが創造都市として大切。モノをつくるだけでなく、音楽をつくることもそうである。市民が1回やって終わりではなく、外向けに発信できるものができて、全国、世界で認められて、初めて創造都市になる。

(小林委員)

これを機会にクリエイトすることを期待したい。音楽関係の会社を起業する、浜松にい

ってレコーディングするなど変わってほしい。創造都市を活かして発信していきたい。国は地方創生に力をいれている。浜松でも国の補助金などを音楽につかってほしい。

(高橋委員)

「音」という大きな括りにフォーカスするのは創造的で面白いと思う。浜松では先進的、革新的にいろいろな積み重ねをやってきている。今までは演奏家をまず育ててきた。演奏者も大切であるが、質の高い市民聴衆を育てていくということも大切だと思う。

(梅田部会長)

創造都市の目的は文化が無くなっていく世の中で、地方の文化を大切にするのが出発点。浜松には多様な文化がある。12月3日のフォーラムでは、フォーラムだけでなく、吹奏楽などの浜松にあるもの、浜松の多様性を知らせたい。浜松がソフトを地産地消していること、外から呼んでくるのではなく、自分たちでつくって、自分たちで聴いている姿を知らせたい。

(2) 音楽人材の育成について

資料3 説明(事務局 浜松市文化振興財団音楽院グループ 島田篤志)

(梅田部会長)

ユネスコ創造都市の約束のなかで、今後、人材育成を行うというのがあり、ここで説明してもらった。浜松では既に人材育成において様々なすばらしい事業を行っていることが分かった。次の一手をうつことが大切。今後どうやっていくべきだと意見がある方、よろしくをお願いします。

(初村委員)

「指導者派遣」事業では私も指導を行っているが、学校から合唱を教えてほしいと要望が非常に多い。(吹奏楽もある)1週間で応募を締め切るほどである。合唱セミナーの講習会で浜松出身の村松さんに講師をしてもらったなら、多くの方が参加した。(東京からもあり)

(岡部委員)

他の都市の人材育成の事例はあるのか?

(事務局 鈴木)

ボローニャでは200年近い歴史の音楽院がある。アントワープ、マンハイムでもあるときいている。ベルギーのアントワープ宣言(4都市)の見直しがあるときいているので、もしかしたら、9都市の人材育成の取組みを発表する場があるかもしれない。

(事務局 浜松市文化振興財団音楽院グループ 島田篤志)

以前にピアノコンクールを担当していたときがあり、著名な審査委員が来たときに浜松の音楽院事業の話をする、どの先生方も、浜松はすばらしい・充実しているという。20年の積み重ね、重みを感じる。小さい頃に音楽院の指導を受けた子どもが、大人に

なって今度は、地元の子供たちに還元して指導していく。国内外で活躍している日本人アーティスト達の約半数が浜松のアカデミー受講生である。浜松から輩出したアーティスト達を どうやって浜松に還元するかが課題である。他都市で継続してここまで長くやっているところはなく、浜松だけである。

(岡部委員)

フォーラムでは海外の都市にも「人材育成について」話をしてもらいたい。

(梅田部会長)

これだけすばらしい人材育成をしていて、海外から指導者を招く必要があるか？
例えばレジデンスで長期に指導者を呼ぶ、博物館のキュレーターを育成するために海外に長期で研修者を派遣する、浜松の芸能を海外に派遣してより良いものにするだとか、いろいろ考えなおさないといけない。今までにこだわらない人材育成が必要になる。

(金子委員)

市民レベルも大切だが、もう少し世界レベルの演奏家をつくらないと、гентと肩を並べられない。浜松に音楽機関（学校なのか分からないが）をつくる必要がある。金メダル養成ではないが、世界に通用する人、トップを育てないといけない。

(事務局 浜松市文化振興財団音楽院グループ 島田篤志)

継続性をもった事業ができるかが、今後の課題になる。

(梅田部会長)

今後も創造都市ネットワークを使って、何ができるか？人材育成についても様々な提案を検討していきたい。

5 その他

事務連絡（事務局 鈴木）

今回は平成 27 年 3 月くらいを調整しているが、年度末で皆さん忙しい時期なのでまた、テーマも含めて調整させてもらおう。

6 閉会